

J.LEAGUE NEWS

Vol.

168

15 Jan. 2010



編集・発行
社団法人 日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ Jリーグ百年構想

新年のご挨拶

© J.LEAGUE PHOTOS



新年明けましておめでとうございます。

今年のJリーグは新たに北九州市から仲間を迎え、全国37クラブで18年目のシーズンを迎えます。昨今の厳しい経済情勢下、全国のJクラブも健全なクラブ経営を目指すとともに、地域における真の存在意義が問われる局面を迎えています。しかし、このような時代だからこそ、スポーツが、サッカーが地域を元気にし、各Jクラブは地域活性化の旗印となるべくその重要な役割を果たすべきであると考えています。

公式試合の年間総入場者数を1,100万人にしようという「イレブンミリオン」プロジェクトは、今年が達成に向けた目標の年です。2007年にこのプロジェクトを立ち上げて以来、「イレブンミリオン」は単なる数値目標ではなく、人々の生活を豊かにするためにスポーツ環境の充実を目指す「Jリーグ百年構想」の実現そのものであると、その意義を強調してきました。全国のJクラブが、ファン・サポーター、地域の人々、自治体、企業などと手を携え、地域においてなくては

ならない存在として愛されるようになることを願っています。

今年はまた、日本代表が参加するFIFAワールドカップが南アフリカで開催され、FIFAクラブワールドカップにつながるAFCチャンピオンズリーグには4つのJクラブが出場します。選手の皆さんは、常に世界を意識しながらJリーグの舞台で最高のパフォーマンスを発揮してください。さらに、日本のプロ選手としてプライドと責任を忘れず、未来を担う子どもたちの模範となるよう期待しています。

本年もJリーグの活動に対し、温かいご支援とご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2010年1月

社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン 鬼武 健二

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS

Calbee

Canon

KONAMI

AiDEM

マイラン製薬

Leopalace21

plenus

Coca-Cola

J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER

朝日新聞

J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER

スカパー!

LEAGUE CUP SPONSOR

ヤマサキナビスコ

SUPER CUP SPONSOR

FUJI XEROX

EQUIPMENT SUPPLIER

molten

J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER

johnson-johnson

大会 G大阪が第89回天皇杯全日本サッカー選手権大会 優勝

FUJI XEROX SUPER CUP 2010のカードは鹿島vsG大阪に決定

第89回天皇杯全日本サッカー選手権大会の決勝が1月1日に国立競技場で行われ、ガンバ大阪が名古屋グランパスに4-1と快勝し2連覇、前身の松下電器の時代を含めると通算3回目の優勝を成し遂げた。この結果、Jリーグの2010シーズンの幕開けを告げる「FUJI XEROX SUPER CUP 2010」は、2009 Jリーグチャンピオンの鹿島アントラーズとG大阪の対戦となることが決まった。

G大阪は6分、見事なパスワークを生かして先制。MF遠藤保仁のパスを起点に、最後はFWルーカスが正確なシュートを流し込んだ。40分には同点に追いつかれ、後半の立ち上がりは名古屋の勢いに押されたが、77分に遠藤が華麗なドリブルから勝ち越し点をマーク。86分には電光石火のカウンターアタックを仕掛けてMF二川孝広がリードを広げ、4分間のロスタイムには

再び遠藤が決めて試合を決定づけた。

西野朗監督は試合後、「ガンバのスタイルで(タイトルを)勝ち取ることができたので、非常にうれしい」と、攻撃的なサッカーを貫いての優勝を喜んだ。また、チームの全得点に絡んだ遠藤も「タイトルを取って、(2010年の)いいスタートが切れて良かった」と語った。

名古屋はMF中村直志が同点ゴールを決め、後半には左サイドからのチャンスメイク、FWケネディの空中戦の強さを生かした攻めでゴールに迫ったが、G大阪の堅い守りを崩すことができなかった。ストイコビッチ監督は「ベストを尽くしたが、これも人生。選手たちを誇りに思う」と敗戦を潔く受け入れた。

天皇杯全日本サッカー選手権大会の優勝チームには、AFCチャンピオンズリーグ(ACL)の出場権が与えられる。G大阪は2009 J1リーグ



©J.LEAGUE PHOTOS

華麗なドリブルで相手をかき、勝ち越し点を決める遠藤

戦の3位によってすでにACL出場権を獲得しており、4位のサンフレッチェ広島が鹿島、川崎フロンターレ(2位)、G大阪とともに出場することになった。

©J.LEAGUE PHOTOS



2009シーズンで最後のタイトル獲得のチャンスをものにしたG大阪

FUJI XEROX SUPER CUP 2010

開催日	2010年2月27日(土)	対戦カード	鹿島アントラーズ (2009 Jリーグチャンピオン) vs ガンバ大阪 (第89回天皇杯全日本サッカー選手権大会 優勝クラブ)
開催会場	国立競技場		

Jリーグ開幕以後の天皇杯決勝 (V=延長Vゴール)

- 第73回(1993年度) 鹿島アントラーズ 2-6(延長) 横浜フリューゲルス
- 第74回(1994年度) セレッソ大阪 0-2 ペルマーレ平塚
- 第75回(1995年度) 名古屋グランパスエイト 3-0 サンフレッチェ広島
- 第76回(1996年度) サンフレッチェ広島 0-3 ヴェルディ川崎
- 第77回(1997年度) 鹿島アントラーズ 3-0 横浜フリューゲルス
- 第78回(1998年度) 横浜フリューゲルス 2-1 清水エスパルス
- 第79回(1999年度) 名古屋グランパスエイト 2-0 サンフレッチェ広島
- 第80回(2000年度) 鹿島アントラーズ 3(V)-2 清水エスパルス
- 第81回(2001年度) 清水エスパルス 3(V)-2 セレッソ大阪
- 第82回(2002年度) 鹿島アントラーズ 1-2 京都パープルサンガ
- 第83回(2003年度) セレッソ大阪 0-1 ジュビロ磐田
- 第84回(2004年度) 東京ヴェルディ1969 2-1 ジュビロ磐田
- 第85回(2005年度) 浦和レッズ 2-1 清水エスパルス
- 第86回(2006年度) 浦和レッズ 1-0 ガンバ大阪
- 第87回(2007年度) サンフレッチェ広島 0-2 鹿島アントラーズ
- 第88回(2008年度) ガンバ大阪 1-0(延長) 柏レイソル
- 第89回(2009年度) ガンバ大阪 4-1 名古屋グランパス

環境 鹿島のエコプログラムが「COOLBIZ OF THE YEAR 2009」部門賞

手軽な地球温暖化防止対策として浸透しているクールビズについて、優れた取り組みを行っている企業、団体、個人を顕彰する「COOLBIZ OF THE YEAR 2009」贈呈式が昨年11月25日に東京都内のホテルで行われ、株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー(代表取締役社長 大東和美)が実施したエコプログラム「食用油でチームトラックを動かそう!」が「COOLBIZ EARTH」部門で受賞した。この部門賞は、地球温暖化防止のための特徴ある活動を実践している企業、団体が対象となる。

鹿島のエコプログラムは昨年5月10日のJ1リーグ戦第11節、清水エスパルス戦の来場者から食用油を回収し、バイオディーゼル燃料(BDF)へ精製後、チームトラックの燃料として用いたもの。食用油のBDF化によって、CO2を削減し、地球温暖化を防止しようとする取り組みだ。373世帯から約336リットル(市販の600グラム入り食用油で約560本)を回収した。チームトラックは選手のユニフォーム、サッカーシューズなどの用具類を運搬している。

受賞に際して大東 代表取締役社長は「受

賞は光栄。今後も高い意識を持って、真摯に環境問題に取り組んでいきたい」とコメントした。



表彰を受けた鹿島の代表取締役社長(右)。左は主催者の一人であるデザイナーのコシノヒロコさん

2010 Jリーグスケジュール

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
 J.LEAGUE DIVISION 1	J1リーグ戦	第1節～第12節 3/6(土)～5/16(日)				第13節～第34節 7/17(土)～12/4(土)					
 2010 J.LEAGUE YAMAZAKI NISSIN CUP	ヤマザキナビスコカップ 予選リーグ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ①3/31(水) ②4/14(水) ③5/22(土) ④6/5(土),6(日) ⑤5/26(水) ⑥6/9(水) ⑦5/29(土),30(日) 準々決勝 QF-1 QF-2 準決勝 SF-1 SF-2 決勝 ★ QF-1 9/1(水) QF-2 9/8(水) SF-1 9/29(水) SF-2 10/10(日) 11/3(水祝)										
 FUJI XEROX SUPER CUP 2010	 2/27(土)										
 J.LEAGUE DIVISION 2	J2リーグ戦	第1節～第17節 3/6(土)～6/13(日)				第18節～第38節 7/17(土)～12/4(土)					
 AFC CHAMPIONS LEAGUE	AFCチャンピオンズリーグ2010 グループステージ ラウンド16 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ● ①2/23(火) ②3/23(火) ③4/13(火) ④5/11(火) ⑤2/24(水) ⑥3/30(火) ⑦4/27(火) ⑧5/10(水) ⑨3/31(水) ⑩4/28(水) 準々決勝 QF-1 QF-2 準決勝 SF-1 SF-2 決勝 ★ QF-1 9/15(水) QF-2 9/22(水) SF-1 10/5(火)または10/6(水) SF-2 10/20(水) 11/12(金)または11/13(土)										
FIFA Club World Cup 2010	FIFAクラブワールドカップ UAE 2010 12月開催										
日本代表	東アジアサッカー選手権2010 決勝大会 ●●●● 2/6(土) vs中国 2/11(木) vs香港 2/14(日) vs韓国 AFCアジアカップ2011カタール 予選 ● 3/3(水) vsパーレーン 2010 FIFAワールドカップ 南アフリカ グループステージ ●●●● 6/14(月) vsカメルーン 6/19(土) vsオランダ 6/24(木) vsデンマーク ノックアウトステージ ラウンド16 6/28(月)または29(火) 準々決勝 7/2(金)または3(土) 準決勝 7/6(火)または7(水) 3位決定戦 7/10(土) 決勝 7/11(日)										
その他	第90回天皇杯全日本サッカー選手権大会 2010年9月～2011年1月1日(土・祝)										

※Jリーグオールスターサッカー：試合日程未定

大会方式

【J1リーグ戦】(18チーム)

ホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりリーグ戦。

【J2リーグ戦】(19チーム)

ホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりリーグ戦。

※チーム数が奇数のため、毎節1チームは試合なし。

【ヤマザキナビスコカップ】(J1 / 18チーム)

予選リーグは、AFCチャンピオンズリーグ(ACL)2010に出場する鹿島アントラーズ、川崎フロンターレ、ガンバ大阪、サンフレッチェ広島を除く14チームを2グループに分け、各グループで1回戦総当たりリーグ戦を行う。決勝トーナメントは、予選リーグ各グループ上位2チームに、前述のACL出場の4チームを加えた合計8チームにより、ホーム&アウェイ方式のトーナメント戦を行う(決勝は1試合のみ)。

2010 シーズンクラブ編成

全37クラブ

コンサドーレ札幌	カタールレ富山
ベガルタ仙台	清水エスパルス
モンテディオ山形	ジュビロ磐田
鹿島アントラーズ	名古屋グランパス
水戸ホーリーホック	FC岐阜
栃木SC	京都サンガF.C.
ザスパ草津	ガンバ大阪
浦和レッズ	セレッソ大阪
大宮アルディージャ	ヴィッセル神戸
ジェフユナイテッド千葉	ファジアーノ岡山
柏レイソル	サンフレッチェ広島
FC東京	徳島ヴォルティス
東京ヴェルディ	愛媛FC
川崎フロンターレ	アビスパ福岡
横浜F・マリノス	<u>ギラヴァンツ北九州※</u>
横浜FC	サガン鳥栖
湘南ベルマーレ	ロアッソ熊本
ヴァンフォーレ甲府	大分トリニータ
アルビレックス新潟	

J1 (18クラブ)

<u>ベガルタ仙台</u>	アルビレックス新潟
モンテディオ山形	清水エスパルス
鹿島アントラーズ	ジュビロ磐田
浦和レッズ	名古屋グランパス
大宮アルディージャ	京都サンガF.C.
FC東京	ガンバ大阪
川崎フロンターレ	<u>セレッソ大阪</u>
横浜F・マリノス	ヴィッセル神戸
<u>湘南ベルマーレ</u>	サンフレッチェ広島

J2 (19クラブ)

コンサドーレ札幌	FC岐阜
水戸ホーリーホック	ファジアーノ岡山
栃木SC	徳島ヴォルティス
ザスパ草津	愛媛FC
<u>ジェフユナイテッド千葉</u>	アビスパ福岡
<u>柏レイソル</u>	<u>ギラヴァンツ北九州※</u>
東京ヴェルディ	サガン鳥栖
横浜FC	ロアッソ熊本
ヴァンフォーレ甲府	<u>大分トリニータ</u>
カタールレ富山	

太字・下線：2009シーズンからの変更個所
※：新規入会クラブ



Jリーグは2007シーズンの開幕前、2010シーズンまでにJ1・J2リーグ戦、Jリーグヤマザキナビスコカップなどの公式試合の年間総入場者数を1,100万人（イレブンミリオン）にしようという中期的な目標である「イレブンミリオン」プロジェクトを立ち上げた。その3年目となった2009シーズンは、J1の入場者がわずかに減ったものの、J2の入場者の増加によって、Jリーグ史上最多となる962万3584人を記録。J1の1試合平均入場者数は、3年連続して1万9000人台

を維持した。

昨シーズンはJ1、J2とも優勝争いが最終節までもつれ込むなど白熱した試合が演じられ、ファン・サポーターも熱狂のスタジアムの雰囲気堪能した。また、各クラブは「イレブンミリオン」の達成に向けて、それぞれの地域で地道な取り組みを続けてきた。全国37クラブとなる新シーズンも、興奮と感動を呼ぶ試合、クラブの多彩なホスピタリティが、スタジアムでファン・サポーターを待っている。

2009シーズン総入場者数：9,623,584人 史上最多(前年差+493,554)

— J1・J2リーグ戦合計：8,756,312人 史上最多(前年差+629,679) —

J1リーグ戦

総入場者数：5,852,705人 史上3位
(最多は1995年の6,159,691人)
平均入場者数：19,126人 史上3位
(最多は1994年の19,598人)
全体収容率：61.4%

J2リーグ戦

総入場者数：2,903,607人 史上最多
平均入場者数：6,326人 史上8位
全体収容率：27.7%

ヤマザキナビスコカップ

総入場者数：642,538人 史上7位
平均入場者数：11,683人 史上6位
全体収容率：38.6%

※収容率はJリーグによる独自調べ

1. 入場者数 年度別統計 1992-2009

大会名	1992(10)			1993(10)			1994(12)			1995(14)			1996(16)			1997(17)			1998(18)		
	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均
サントリーシリーズ(1stステージ※)	—	—	—	90	1,518,801	16,876	132	2,597,599	19,679	182	3,043,768	16,724	—	—	—	136	1,443,113	10,611	153	1,900,076	12,419
NICOSシリーズ(2ndステージ※)	—	—	—	90	1,716,949	19,077	132	2,576,218	19,517	182	3,115,923	17,120	—	—	—	136	1,312,585	9,651	153	1,766,420	11,545
リーグ戦合計	—	—	—	180	3,235,750	17,976	264	5,173,817	19,598	364	6,159,691	16,922	240	3,204,807	13,353	272	2,755,698	10,131	306	3,666,496	11,982
ヤマザキナビスコカップ	48	533,345	11,111	39	733,734	18,814	13	218,261	16,789	—	—	—	115	1,335,361	11,612	74	581,834	7,863	43	334,947	7,789
サントリーチャンピオンシップ第1戦	—	—	—	1	53,553	53,553	1	42,316	42,316	1	47,631	47,631	—	—	—	1	17,269	17,269	1	40,263	40,263
サントリーチャンピオンシップ第2戦	—	—	—	1	53,010	53,010	1	50,512	50,512	1	48,271	48,271	—	—	—	1	15,276	15,276	1	16,991	16,991
サンワバンクカップ	—	—	—	—	—	—	1	45,617	45,617	1	27,038	27,038	1	28,113	28,113	1	26,842	26,842	—	—	—
ゼロックス スーパーカップ	—	—	—	—	—	—	1	51,154	51,154	1	53,167	53,167	1	39,570	39,570	1	28,920	28,920	1	35,208	35,208
オールスターサッカー	—	—	—	1	42,790	42,790	1	37,976	37,976	1	53,690	53,690	1	41,629	41,629	1	22,248	22,248	1	60,566	60,566
JOMO CUP	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	50,034	50,034	1	40,067	40,067	1	16,819	16,819	1	47,020	47,020
サントリーカップ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	56,383	18,794	—	—	—	—	—	—
J1参入決定戦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	75,574	10,796
合計	48	533,345	11,111	222	4,118,837	18,553	282	5,619,653	19,928	370	6,439,522	17,404	362	4,745,930	13,110	352	3,464,906	9,843	361	4,277,065	11,848

(※) 1997年度より、1stステージ、2ndステージ

大会名	1999(J1:16/J2:10)			2000(J1:16/J2:11)			2001(J1:16/J2:12)			2002(J1:16/J2:12)			2003(J1:16/J2:12)			2004(J1:16/J2:12)		
	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均
1stステージ	120	1,383,055	11,525	120	1,252,140	10,435	120	2,094,446	17,454	120	2,017,881	16,816	120	2,141,807	17,848	120	2,251,508	18,763
2ndステージ	120	1,414,950	11,791	120	1,403,413	11,695	120	1,876,969	15,641	120	1,910,334	15,919	120	2,022,422	16,854	120	2,300,187	19,168
J1リーグ戦	240	2,798,005	11,658	240	2,655,553	11,065	240	3,971,415	16,548	240	3,928,215	16,368	240	4,164,229	17,351	240	4,551,695	18,965
J2リーグ戦	180	827,217	4,596	220	1,340,820	6,095	264	1,505,722	5,703	264	1,806,392	6,842	264	2,084,185	7,895	264	1,904,172	7,213
リーグ戦合計	420	3,625,222	8,631	460	3,996,373	8,688	504	5,477,137	10,867	504	5,734,607	11,378	504	6,248,414	12,398	504	6,455,867	12,809
ヤマザキナビスコカップ	49	368,560	7,522	51	275,848	5,409	53	310,277	5,854	55	527,291	9,587	49	491,048	10,021	55	720,098	13,093
サントリーチャンピオンシップ第1戦	1	17,337	17,337	1	41,595	41,595	1	32,368	32,368	—	—	—	—	—	—	1	64,899	64,899
サントリーチャンピオンシップ第2戦	1	20,309	20,309	1	44,665	44,665	1	40,115	40,115	—	—	—	—	—	—	1	59,715	59,715
ゼロックス スーパーカップ	1	28,520	28,520	1	25,063	25,063	1	25,095	25,095	1	34,576	34,576	1	22,904	22,904	1	30,158	30,158
オールスターサッカー	1	43,560	43,560	1	32,105	32,105	1	37,432	37,432	1	57,496	57,496	1	34,669	34,669	1	40,640	40,640
JOMO CUP	1	50,196	50,196	1	40,486	40,486	1	24,548	24,548	—	—	—	—	—	—	—	—	—
J1・J2入れ替え戦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	33,671	16,836
AFCチャンピオンズリーグ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	17,593	8,797	—	—	—	6	43,411	7,235
合計	474	4,153,704	8,763	516	4,456,135	8,636	562	5,946,972	10,582	563	6,371,563	11,317	555	6,797,035	12,247	571	7,448,459	13,045

【総合計 1992-2009】

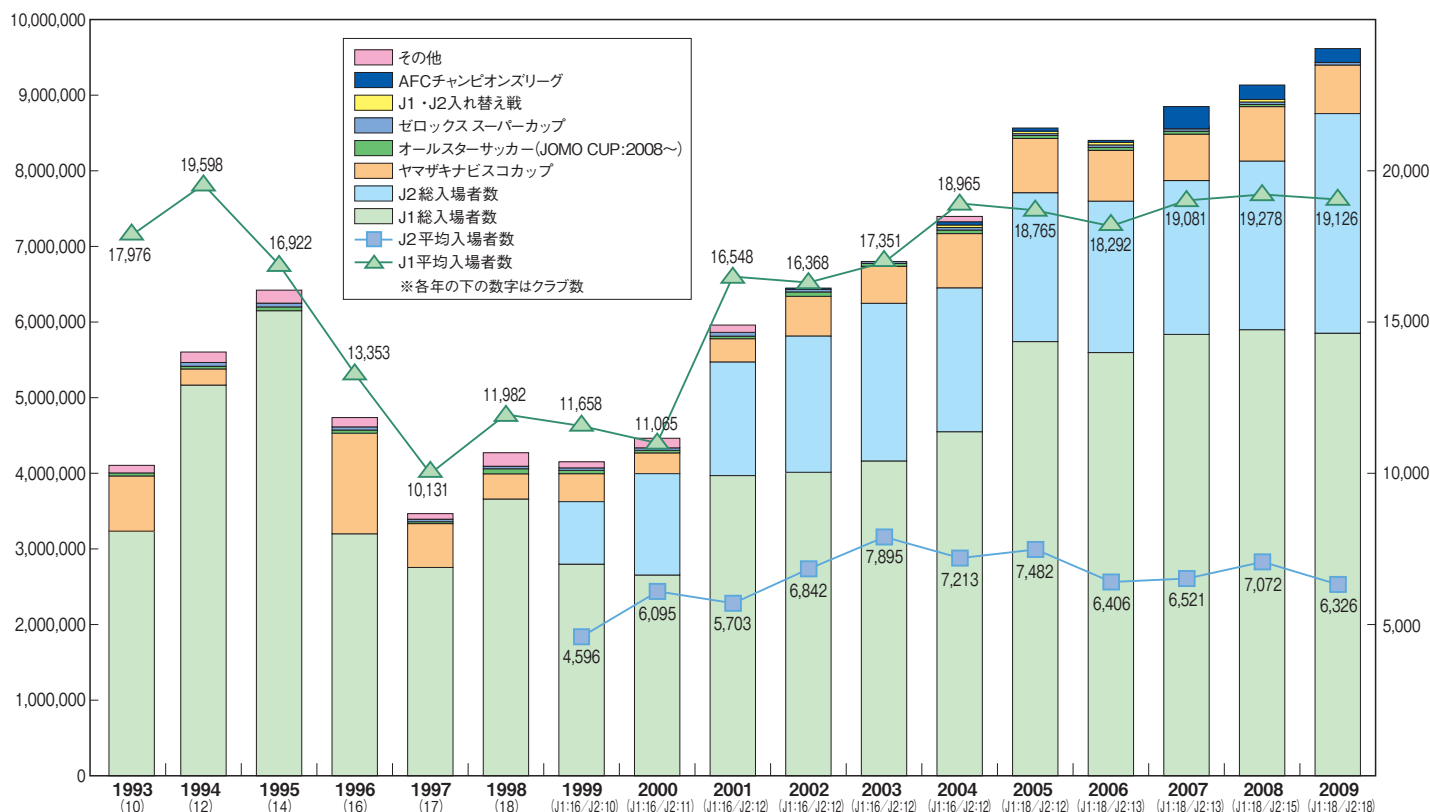
大会名	2005(J1:18/J2:12)			2006(J1:18/J2:13)			2007(J1:18/J2:13)			2008(J1:18/J2:15)			2009(J1:18/J2:18)			大会名	入場者数合計	試合数	平均
	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均	試合	入場者数	平均				
J1リーグ戦	306	5,742,233	18,765	306	5,597,408	18,292	306	5,838,771	19,081	306	5,899,063	19,278	306	5,852,705	19,126	J1リーグ戦	75,195,551	4,596	16,361
J2リーグ戦	264	1,975,340	7,482	312	1,998,648	6,406	312	2,034,543	6,521	315	2,227,570	7,072	459	2,903,607	6,326	J2リーグ戦	20,608,216	3,118	6,609
リーグ戦合計	570	7,717,573	13,540	618	7,596,056	12,291	618	7,873,314	12,740	621	8,126,633	13,086	765	8,756,312	11,446	リーグ戦合計	95,803,767	7,714	12,419
ヤマザキナビスコカップ	61	742,567	12,173	64	674,147	10,534	61	615,149	10,084	61	722,330	11,841	55	642,538	11,683	ヤマザキナビスコカップ	9,827,335	946	10,388
ゼロックス スーパーカップ※	1	21,104	21,104	1	35,674	35,674	1	35,307	35,307	1	27,245	27,245	1	36,880	36,880	ゼロックス スーパーカップ	530,545	16	33,159
オールスターサッカー	1	33,549	33,549	1	32,975	32,975	1	30,941	30,941	—	—	—	—	—	—	オールスターサッカー	602,266	15	40,151
JOMO CUP ※2008～	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	27,629	27,629	—	—	—	JOMO CUP ※2008～	27,629	1	27,629
J1・J2入れ替え戦	2	24,385	12,193	2	25,111	12,556	2	35,799	17,900	2	35,667	17,834	—	—	—	サントリーチャンピオンシップ	706,095	18	39,228
AFCチャンピオンズリーグ	6	40,818	6,803	4	26,293	6,573	10	292,558	29,256	12	190,526	15,877	18	183,959	10,220	J1・J2入れ替え戦	154,633	10	15,463
その他の公式試合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,895	—	その他の公式試合	532,632	21	25,363
合計	641	8,579,996	13,385	690	8,390,256	12,160	693	8,883,068	12,818	698	9,130,030	13,080	839	9,623,584	11,466	AFCチャンピオンズリーグ	795,158	58	13,710

(※) 2009年度より、FUJI XEROX SUPER CUP

●2009年10月7日 J1第25節 鹿島vs川崎F(カシマ)再開試合入場者数：3,895人

総合計(1992-2009) 108,980,060 8,799 12,386

2. Jリーグ入場者数推移 1993-2009



3. 2008/2009 クラブ別リーグ戦平均入場者数

■ J2における入場者数 ■ J1における入場者数

J1 (2009年)	山形	鹿島	浦和	大宮	千葉	柏	F東京	川崎F	横浜FM	新潟	清水	磐田	名古屋	京都	G大阪	神戸	広島	大分
2008年	6,273	19,714	47,609	10,714	14,084	12,308	25,716	17,565	23,682	34,490	16,599	15,465	16,555	13,687	16,128	12,981	10,840	20,322
2009年	12,056	21,617	44,210	16,247	14,730	11,738	25,884	18,847	22,057	33,446	17,935	13,523	15,928	11,126	17,712	13,068	15,723	18,428

J2 (2009年)	札幌	仙台	水戸	栃木	草津	東京V	横浜FC	湘南	甲府	富山	岐阜	C大阪	岡山	徳島	愛媛	福岡	鳥栖	熊本
2008年	14,547	14,080	3,044	—	4,215	14,837	6,793	5,994	10,354	—	3,745	10,554	—	3,862	3,704	10,079	7,261	5,279
2009年	10,207	12,951	2,673	4,706	4,330	5,521	3,535	7,273	11,059	3,740	4,302	9,912	6,162	4,073	3,694	7,763	5,939	6,006

4. 2009 リーグ戦入場者数 節別推移 入場者数合計／平均入場者数



FC東京U-18が2年ぶり2回目の優勝を飾る

2009 J ユースサンスターニッパップ 第17回 J リーグユース選手権大会



昨年の8月15日に幕を開けた「2009 J ユースサンスターニッパップ 第17回 J リーグユース選手権大会」は同12月27日に大阪長居スタジアムで決勝が行われ、FC東京U-18がサンフレッチェ広島F.Cユースを2-0のスコアで下し、2年ぶり2回目の優勝を飾った。

試合はF東京が縦への鋭い攻めで相手ディフェンスラインの背後を狙い、広島がショートパスをつないで攻め込む展開。均衡が破れたのは26分。ゴールから約30メートルの直接FKをF東京のFW重松健太郎がシュートし、ボールは相手GKの手をはじいてゴールネットを揺らした。80分には、MF年森勝哉のパスを受けたMF三田尚央が相手GKと1対1になり、冷静に決めてリードを広げた。

広島は36分に退場者を出したものの、持ち前のパスワークを生かして果敢に反撃。一人少ないハンディを感じさせない戦いぶりを披露し、「2点目を取るまでは広島ペース」(F東京の倉又寿



2006年の第14回大会決勝で敗れた広島ユースとの接戦を制し、見事に優勝を成し遂げたF東京U-18

雄監督)となり、勝敗の行方は予断を許さなかった。両チームとも最後までゴールへの意欲を持ち続けて攻め合った熱戦で、ファン・サポーターの熱心な声援も、大いに試合を盛り上げた。

表彰式後には初の試みとしてポストマッチファンクション(交歓会)がスタジアム内に開催された。両チームの選手やスタッフ、審判団、大会スポンサー関係者が出席。鬼武健二 J リーグチェアマンのあいさつに始まり、両チームの選手による大会スポンサー、審判団への記念品贈呈なども行われ、その後は時間の許す限り、互いに健闘をたたえる姿が見られた。

会の最後には両チームのキャプテンが、「ファイナルの舞台に立てたことに誇りを持ち、感謝し

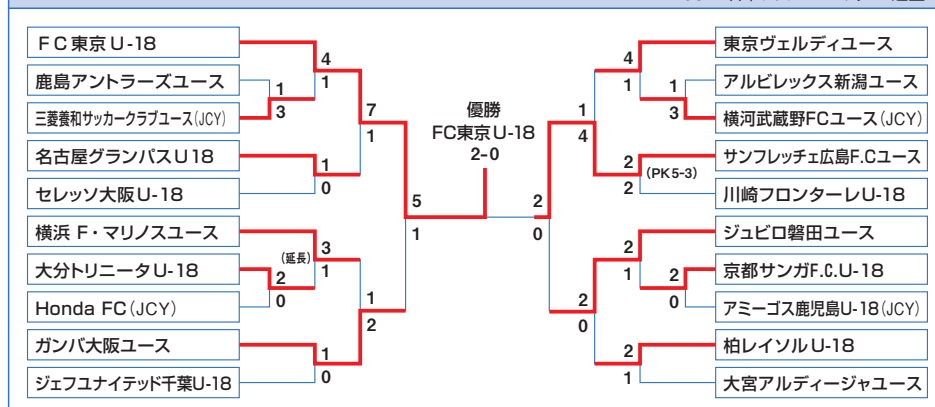


優勝したF東京には、大会スポンサーであるサンスター(株)よりサンスターニッパップが授与された

たいと思う」(広島の茶島雄介)、「Jユースで戦ったことを忘れずに、次に生かしていきたい」(F東京の年森)とあいさつして締めくくった。

決勝トーナメント表

※JCY: 日本クラブユースサッカー連盟



© J.LEAGUE PHOTOS



試合終了まで白熱した攻防を演じたF東京と広島

Jリーグユース選手権大会 決勝の成績

※延長VG: 延長Vゴール

第1回 横浜M 0-1 V川崎	第10回 広島 0-5 G大阪
第2回 V川崎 2-3 G大阪 (延長VG)	第11回 広島 6-4 市原
第3回 広島 3-1 V川崎	第12回 広島 0-0 広島 (延長, PK 3-1)
第4回 V川崎 2-1 G大阪	第13回 神戸 1-4 清水
第5回 清水 3-0 広島	第14回 広島 2-0 F東京
第6回 市原 2-3 広島	第15回 柏 1-2 F東京
第7回 神戸 2-0 横浜FM	第16回 C大阪 2-4 G大阪
第8回 清水 0-1 G大阪	第17回 F東京 2-0 広島
第9回 京都 3-1 F東京	

決勝における鬼武健二チェアマンのコメント

FC東京U-18の皆さん、優勝おめでとう。スピード感あふれるダイナミックなプレーはトップチームをほうふつさせるものでした。そしてサンフレッチェ広島F.Cユースの皆さん、敗れはしましたが、広島から来られた多くのファン・サポーターの前で見事な戦いぶりでした。もちろん勝敗にこだわることは大事なことです。ユース年代にとって一番大事なのは、この経験を次にどう生かしていくかだと考えています。決勝を見て、毎年着実に個々の選手の技術が向上しているのを感じました。今日出場した選手の中から一人でも多くの選手がトップチームの中心選手として活躍してほしいと願っています。Jリーグは今後もアカデミー年代の強化に力を入れていくことで、日本サッカーのさらなる技術向上を目指していきます。



© J.LEAGUE PHOTOS

ポストマッチファンクションであいさつする鬼武チェアマン

ポストマッチファンクションであいさつする鬼武チェアマン